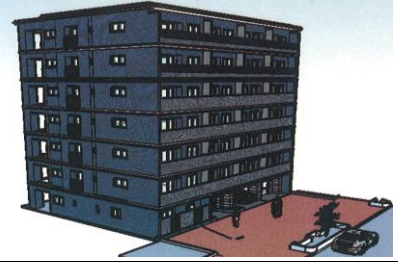


# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE京都-新築 (2011年版) | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)MM 五条堀川 新築工事	階数	地上7階
建設地	京都市下京区堀川通五条下る柿本	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	70 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,000 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2014年2月17日
敷地面積	434 m <sup>2</sup>	作成者	今井 英雄
建築面積	369 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	2,574 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.6** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア= 2.5

**Q1 室内環境** Q1のスコア= 2.6

**Q2 サービス性能** Q2のスコア= 2.6

**Q3 室外環境(敷地内)** Q3のスコア= 2.2

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア= 2.5

**LR1 エネルギー** LR1のスコア= 2.2

**LR2 資源・マテリアル** LR2のスコア= 2.9

**LR3 敷地外環境** LR3のスコア= 2.6

3 設計上の配慮事項		
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。	
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。各住戸に奥行のあるバルコニーを設置し直射日光を遮る配慮をする計画とし、外部の音に関してサッシはT-2の防音サッシ	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。各住戸ともバリアフリーとし極力段差のない住空間を提供する。住戸へのアプローチに関してもエレベーターを使用しバリアフ	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。車と人の動線を分離し安全に配慮する計画とした。自転車等のスペースを一室一台を確保。セキュリティの面においてはオー
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。共用部分の照明においてはタイマー制御により夜間の消費電力を抑制可能なシステムの設計を行なった。エレベーターはインバーター制御により省エネの設計を行なった。	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。隣地側には排気等を極力控えた換気用の開口部の設置とし、音及びトラブル等の原因に可能な限り配慮した計画とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される